

# KANASAの歩み

## (2) 10号から20号まで

東京秋工会 副会長  
会報KANASA 編集長

### 加賀谷 健治

(昭和36年電気科卒)



私は、H4年に転勤した事務所が会場の「東京プリンスホテル」から徒歩5分なので東京秋工会の総会に初めて出席しました。同窓生の皆さんに気軽に声をかけて頂き楽しい時を過ごしました。

H7年から幹事になりましたが、当時東京秋工会総会参加者数が50名程度で、少ない時は33名と寂しい年もあり、また年会費の集まりも悪く、活動費捻出のために東京秋工会が幹事から役職に応じて借金をする状態でした。なお、後日この借金は全員会に寄付しました。僣越ながらこの状態を見かねて、ある幹事会の後居酒屋で澤木会長に東京秋工会活性化ため次の進言をしたのが会報KANASA編集長になるきっかけとなりました。

- ① 年会費納入者を増大のためには、会員が納入する年会費に見合うように「会報KANASA」の内容を充実すること。
- ② 「会報KANASA」制作は、特定の人だけに負担をかけるのではなく、幹事全体で業務分担をして計画的に行うこと。
- ③ 東京秋工会総会案内は、開催日の3か月前には送付して、参加希望者の会員に他の予定が入らないようにすること。

この事があって、H14年発行の「10号記念号」から私が編集長を引き受ける事になり、次のようなことを行いました。

#### 1) 「編集委員会」の設置と「発行計画・編集構想」の作成

まず、主要幹事で構成する編集委員会を設置しました。そして、会報制作と広告募集の業務に対する担当者を割当て、編集会議の日時と場所の年間スケジュールを決めて、「会報KANASA発行計画(案)」としてまとめました。1月の幹事会で説明し編集委員の年間予定に入れてもらいました。

また、制作する会報全体のイメージを編集委員全員が予め分かるように、全頁の掲載内容と各ページの担当者と期限を「会報KANASA編集構想(案)」としてまとめました。

#### 2) 編集会議

編集会議は上記「発行計画」と「編集構想」に沿って協議を行いました。会議では思惑を超えた意見が続出し、また原稿の内容も期待を上回り、秋工健児の実力の高さを感じました。

編集会議後には、「発行計画」と「編集構想」の変更・修正箇所を更新して、全編集委員に配布し最新の内容を周知させました。今年は、準備会1回と編集会議8回開催しました。

#### 3) 表紙

会報KANASAの顔としての表紙は、会員の注意を引くため、カラー印刷で目立つようにしました。

また、表紙の絵柄は、同窓生の郷愁を誘うものを考えました。「10号記念号」では、私が母校の登下校時に気に入っていた「旭川に架かる中島橋の上に見える太平山」の風景写真を10号

～13号まで掲載しました。

しかし、写真の中島橋は木造からコンクリートに、旭川も護岸に覆われ昔の面影が無いとの意見があり、14号からは昔懐かしい木造の旧校舎の写真に変更しました。

さらに、旧校舎を知らない若者も多くなったとの意見があり、15号では現校舎と旧校舎の写真を掲載しました。

今回の創刊20号特集号からは、会員寄稿の秋田の風景写真と新旧校舎を掲載し、表紙のイメージを一新しました。

#### 4) 総会案内

会報KANASAと同時に作成する「東京秋工会総会案内」の掲載内容も編集会議で協議して決めました。

アトラクションとして、同窓生が興味を持つ「講演」と「演奏会」を協議し出演者の都合と予算によって決定しました。

総会案内を本分中に掲載したところ、見落としとして総会に参加できなかった会員がおりましたので、12号からは、見落としが無いようにカラー別刷りのチラシを添付しました。

15号からは、制作費を下げるために、総会案内を表紙の裏にカラー印刷して目立つように掲載しました。

#### 5) 掲載記事

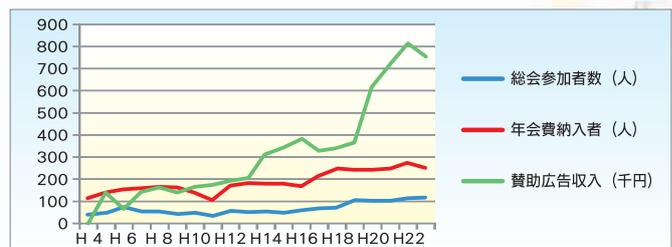
会員の興味を引くテーマを協議して掲載しました。母校の活躍や同好会の活動、そして会員投稿などです。特に悲願である「秋工ラグビー復活」の関連記事は毎号掲載しております。

#### 6) 賛助広告

会報KANASA制作費用を広告収入で賄うことを目標に、広告募集担当の方々は努力しております。16号からはカラー広告ページを2ページ増やした結果、広告収入が急増し広告収入で制作が出来るようになり、広告募集担当の努力が報われました。

#### 7) 「会報KANASA」新体制による成果

新編集体制による活動成果を確認するため、「総会参加者数」と「年会費納入者数」そして「賛助広告収入」の変化を下図グラフで示します。H14年以降全てが増大しました。



特に効果が高い対応策は次の3点でした。

- ① H17年13号から「会費納入のお礼」チラシを添付した。
- ② H20年16号からカラー広告を2ページ増加した。
- ③ H22年18号「70周年記念特集号」では、賛助広告、新規総会参加者とも急増した。総会参加者は次年度も継続して参加。

#### 8) 今後の対応

今後東京秋工会を継続するためには、若者の参加が不可欠です。特に昭和後期と平成世代の幹事を増やし、若者の趣味や思考などに配慮した「会報KANASA」の紙面作りや、若者の参加を誘う「総会のアトラクション」等を考えて貰いたいと思います。

私は古希に達し、若者の趣味と大幅に異なります。東京秋工会がさらに発展するため、21号からは若い人に編集長を譲りたいと思います。この結果、従来の参加者に加え多数の若者が参加して、東京秋工会が益々発展する事を念願致します。